

第37回 議会改革推進特別委員会記録

令和6年7月10日（水）
開議 10時 00分
閉議 11時 24分
第2委員会室
（オンライン併用）

【委員】 牛尾委員長、西田副委員長
三浦委員（オンライン）、村武委員、小川委員、布施委員、佐々木委員、
田畑委員

【議長団・委員外議員】

【事務局】 ~~下間局長、松井次長、小寺書記~~

議題

- 1 事務事業評価について
 - (1) 試行及び本格実施方法確認

 - (2) 評価試行

- 2 議会図書室の活用について
 - (1) 活用方法確認

- 3 その他

○次回開催 令和6年8月2日（金）午前10時から

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 00 分 開議]

○牛尾委員長

第37回議会改革推進特別委員会を開会する。本日は三浦委員からオンライン出席の届出があったため、オンライン併用で開催する。

1 事務事業評価について

(1) 試行及び本格実施方法確認

○牛尾委員長

事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○牛尾委員長

前回皆からいただいた意見をまとめたのだが、これについて何か意見はあるか。佐々木委員が言われた件は、このような感じで良いか。

○佐々木委員

はい、良いと思う。

○牛尾委員長

今日は後で評価試行するのでその中でまた。特に意見がなければ。

○佐々木委員

今年度試行的にやるとのことだが、基本的に評価シートを記入してまず予算決算委員会で事前に各委員が提出しておき、それを基に予算決算委員会で議論したものを、今度は意見書として作成するというのが大まかな流れか。

○小寺書記

右側ページの小松島市議会のシートと評価意見書を参照されたい。評価シートをまず全委員に書いていただく。最終的にそれらの評価やこれまでの質疑や所管事務調査を踏まえ、議会評価意見書を各グループに作っていただくのが今回の想定である。総務所管の事業は総務グループで作成し、福祉所管の事業は福祉グループで作成し、それを最終的に全委員の予算決算委員会の中で報告いただき、それを予算決算委員会として一つの形にしていくという想定である。

○佐々木委員

評価シートを出すタイミングは。今年度は試行的なので予算決算委員会の前に出してもらい、それ以降本格実施になった場合、シートはどのタイミングで出すのか。

○小寺書記

一応同じと思っている。決算審査の質疑が終わってから出していただく形かと思う。決算審査が終わり、審査のまとめ日が始まるまでに出すイメージで、質疑も踏まえて出せるように想定している。

○牛尾委員長

三つの決算審査が終わってから記入する。いろいろな意見が出てくるだろう。ほかに疑問点があるか。

○布施委員

議会側は事務評価シートを作るが、執行部側はあくまでも決算での拡充や廃止などの判断によって必要と思われるものを出す。議会の事務事業評価なる事業に対して、執行部側は自分たちの評価を改めて出すようなことはしないのか。

○小寺書記

小松島市議会などはそのようなやり方をされていたと思うが、今の想定では執行部に何か出してもらうことは想定していない。あくまで議会が主体的に事業を評価するという考え方でいる。しかし、布施委員が言われる形もできるとは思う。ただ、執行部にもやってもらうことになるので枠の組み方になるかとは思っている。

○布施委員

議員評価の中に拡充や改善などがあるが、これに当てはまらない難しい判断のものがある。今回を例に挙げると、拡充も改善も効率化もしてほしい。そういう場合は複数に丸を付けても良いのか。それともあくまでも一つにするのか。

○小寺書記

これはあくまでも試行なので、この項目については自由に変えて良いと思っている。今回やってみて、あったほうが良いと思われる項目があれば書き換えたり加えたり直したりはしても良いと思っている。ここにあるのは参考と思っていただきたい。

○牛尾委員長

本格運用にしたら、おそらくこの分け方に当てはまらないものが出てくると思う。それは別途設けるということも運用の中でやっていく必要がある。

三浦委員は、何かあるか。

○三浦委員

説明に対し特に質問はない。

○村武委員

評価事業を選定するプロセスだが、予算決算委員会において評価事業を選定すると思う。この選定の仕方、決め方はどうするのか。

○小寺書記

予算決算委員会内で話すとなると全委員おられるので、委員長進行の下での事業にするか、どなたが提案しても良いと思う。所管事業から今の想定では2事業程度、皆で協議してお選びいただきたい。

○田畑委員

議員の事務事業評価となると、実績報告書がベースになるのか。

○小寺書記

執行部に出していただくのは、主要施策等実績報告書を基にすることを想定している。それに加えて、決算審査での質疑における掘り下げや本格実施した際には所管

事務調査事項も踏まえることになるかと思っている。令和6年度の試行においては主要施策等実績報告書と決算審査での質疑での評価になるかと思う。

○牛尾委員長

いずれにせよ本格実施になると3月の時点で絞り込むので、7月、8月のうちに所管事務調査等でしっかり深掘りする時間がある。やってみればそれなりの方向が出てくるのではないか。

○布施委員

やってみて積み上げていけば良い。

○牛尾委員長

やりやすいように手を入れながら作り上げる必要があるのではないかと思う。

○小川委員

決算認定するために閲覧資料の請求をするが、選定した2事業程度については個人が申請せずとも各グループ内で検討するうちに請求したい資料が出てくると思う。その辺の流れはどうなるか。

○小寺書記

今の想定だと特に自動的にということは考えていないが、その事業について全部ということになるのか、もっと個別に何かあるのかということも含めてだと思ふ。今の想定では、個人で閲覧要求書を出していただく形かと思うので、例えば各委員会の所管事務調査内で閲覧したい資料の話があれば、委員会内で誰かが代表して請求すれば資料は閲覧できるかと思う。

○小川委員

今年度は試行とのことなので、各委員で評価シートを作る。その作る段階でも実績を見ておく必要があると思われる方がいると思う。今年については各委員が自主的に申請するのか。来年4月以降は事業が決まっているので、決まっていれば各グループ内でそういう作業はできると思うが。今年度は、必要な資料は個人で閲覧請求すれば良いか。

○小寺書記

閲覧資料の請求は小川委員が言われた流れでできると思う。

○牛尾委員長

いずれにせよ本格実施すれば、委員会ごとの選定事業については委員長が代表して閲覧請求するといったことをどこかで決めておかないと、そのほうがスムーズではないかと思う。委員会を代表するのは委員長だから、委員長がそのテーマについては閲覧資料を請求するという事だろうと思う。

先般監査報告があったが、予算決算委員会の前段であのような報告があると資料閲覧のヒントになるだろうと思った。あのような監査の指摘も資料閲覧の理由になるだろうと感じた。

では、今のような話を会派に持ち帰ってもらいたい。次回は、こういう形でやりたいといったものを決めたいと思う。できれば合意いただいて、もし会派内で付け加

えるべきといった話があれば、その件も報告いただきたい。事務局もそれで良いか。

○小寺書記

はい。

○牛尾委員長

ではそのようにお願いします。

(2) 評価試行

○牛尾委員長

事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○牛尾委員長

休憩を取って試行してみようか。

(「はい」という声あり)

暫時休憩する。

[10 時 23 分 休憩]

[11 時 02 分 再開]

○牛尾委員長

委員会を再開する。皆にシートへ書き込んでもらったが、感想などがもしあればお願いします。

○三浦委員

各委員の評価シートを拝見して、事務事業の方向性の拡充、改善、効率化、継続などそれぞれの意見を基に丸を付けられているのかと思うが、理由などを見ると課題意識のようなものは共通してあると感じたので、そういった共通項を見いだすにはこういう評価シートを作ると見える化されて分かりやすくなると感じた。

○牛尾委員長

皆順番にお願いします。

○田畑委員

今まで予算審査する上において、医師確保対策事業、金額は127万円だが中身を精査せずに賛成してきたと大いに反省しなければいけない。本当に医師を確保するのであれば、視察やパンフレットなどの内訳は別として、本当に産婦人科医を招致したときのような何千万円という金額が上がってこなければ、本当に医師を確保するという意欲がないとも取れるので、次回からの予算決算委員会ではそういったところにも着目しながら進めていきたい。

○村武委員

事業評価シートを作ることによって、委員会でも何が課題なのかをきちんと皆で

共有できるし、各議員ももっと深く事業に取り組めると思う。これが見える化して執行部に出すことによって議会からの申入れがより強くなるのではないかと思った。

○小川委員

医師確保については一自治体にできる課題ではないということを感じた。医師確保について全国的な課題であるが、できる限りのことはやっていこうということで、恐らくこの事業も医師会等の要望を聞く中で実施されているのだろう。それが果たして自治体にできるか。そういうところを感じた。

○布施委員

医師確保はインフラだと思っている。この部分がしっかりできてないと移住にも教育にも影響してくると思っている。そのために医師確保対策については今後、浜田市江津市の医療圏について学生時代からの育成を、本当に頑張ってもらわないといけない。

○佐々木委員

現在予算化されて行われている事業、補助金やチラシを作って配付した効果がどうなのかが一番大きな課題だと思っていた。今後のことということで皆が書かれているとおり、非常に重要なテーマなので予算の拡充も含めてより効果的なものを、議会として調査するのはなかなか難しいテーマなのかもしれないが、市民生活に直結する事業だけに、できるところをやっていく必要があると、このシートから感じた。

○西田副委員長

あくまでも医師でない立場からの思いは、今は医師が足りず確保しなければいけないということだが、一番肝心なのは医師の立場に立って、医師として浜田に来た場合、あるいは浜田で医師として働く場合、何が不足しているのか、どうしたらいいのか、医師の立場に立った気持ちの深掘りなどを調査することも大事かと感じた。

○牛尾委員長

皆がこうして評価シートを書かれた中で言えば、皆の考えがどうであるか見える化するので、こういう中で絞り込んでどうあるべきかに持っていやすいのだろう。評価シートを作って初めて分かる部分があると今日は感じた。今日の経験を会派へ持ち帰っていただきたい。どちらにしても全体でやらなければいけない。

○小寺書記

私が見ていて気になったのは、最終的に評価意見書にまとめるという文字に起こす作業がどうかと思ったので、各グループでうまく分担できれば良いと思った。

○牛尾委員長

事務局が指摘したように、最初にグループに分かれて評価シートをやるときに特別委員会のメンバーが中心的に頑張っていたかかないと難しい部分があるのではないかと。我々はまたテーマを変えて試行しながら訓練しなければならないと感じた。

○小寺書記

今試しに1事業やってみたが、令和6年度の試行のときには何事業くらいが良いか。本格実施は所管のグループで2事業、合計6事業くらいを想定しているが、そのような

イメージでよろしいか。もともとの資料だと10時に委員会が始まり、10分程度説明があり、再開して昼までということで、1時間半から40、50分の時間で、各グループで2事業くらいできるという想定なのだが、試行についてもそれくらいで良いか。それも含めて会派で話してもらっても良いかと思うので、よろしく願います。

○牛尾委員長

今の件は会派持ち帰り。先ほどの試行はたった一つのテーマだったが結構時間を要した。10時から始まって、休憩時間を入れたら2時間程度の中でどのくらいのテーマができるか逆算すれば、せいぜい2事業くらいかと思う。それは会派内でどのくらいが適当かを話して、次回に持ち寄っていただくようお願いする。

2 議会図書室の活用について

(1) 活用方法確認

○牛尾委員長

事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○牛尾委員長

図書館との連携をどうやるか前回相当詰めて、今回案を示した。この案でよろしいか。また、せっかく選書してもらったのに誰も借りないということがあってはいけないので、借りの努力が当然必要だと思う。その辺は皆留意いただきたい。このようなやり方でよろしいか。

○小寺書記

議会運営委員会というのが一番大きいポイントかと思う。議会運営委員会を通さず、例えば決めた日で希望する人から選書してほしい分野を募るようなやり方もできなくはないと思う。個人的には議会として取り組むことなので議会運営委員会で、議会運営委員会には各会派がそろっているのだから、そこから漏れることない取組になるかと思ったので議会運営委員会としているのだが、そこまでやるかどうかは、ぜひ会派に持ち帰っていただければと思う。よろしく願います。

○牛尾委員長

三浦委員、今の件に何か意見あるか。

○三浦委員

各会派から選書を依頼する分野をと書いてあるが、例えばここにある「農業」だけだと範囲があまりに広すぎるので、レファレンスをお願いするときには、なぜこういうテーマなのかをもう少し具体的に絞って中央図書館の方をお願いするほうが、より選書しやすくなると思うし、こちらの目的に沿ったものを上げていただけないかと思った。

○佐々木委員

毎定例会議ごとに会派から提案してもらおうとある。例えば人口減少なら、6月に引

き続き9月も、2冊ということになっているので、それ以上にいろいろな書物があると思う。別の書物を出してもらおうなど。また、2冊に限らず4冊おすすめてがあれば出してもらおう。2冊に限定するのは意味があるのか。

○小寺書記

中央図書館で基本的に選書していただくので、毎月の上限もある。議会があまり多く取ってしまいほかの公共的な選書に食い込んではいけなかつたかと思つた。選書会議は年12回、毎月あるのだが、そのうちの4分の1の中のさらに10冊を上限にというのが落としどころかと思つて2冊を上限としている。しかしその辺は図書館との協議で数を増やすこともできなかつたかもしれない。

○牛尾委員長

個別に行つて借りることもできるのだから、その辺も含めて取りあえずこの程度でスタートするということ。もっと選書を増やしてほしいなら、それは変えていけばいいのだから。とりあえず事務局が試案するに2冊程度ではないかと。

先ほど三浦委員が言われたように、例えば農業だけでは範囲が広いので耕作放棄地問題など、もう少し図書館が選びやすい分野を絞り込んでこちらが出す必要があるのではないかと感じる。あくまでも案なので、とりあえずこういう形で一旦会派へ持ち帰ってもらおうのだが、その前に意見があれば。

正副委員長としては、できるだけ早くスタートしたい。走りながら拡充していくということに進めたい。

○小川委員

図書館の負担にあまりならないような形でないといけなかつた。これくらいが落としどころだと言われたが、この程度なら図書館や司書を含めてあまり負担にならないのだろうか。予算など。選書会議でそれだけのウエイトを議会が占めるのは大丈夫なのか。

○小寺書記

選書は基本的に図書館が公平中立な立場から行つて、全市民の事を考えるのがベースにあるものだと伺っている。議会と連携するに当たつて、議会から出てくるような分野は地域課題の解決につながるものなのではないかということは話して、そういった部分での選書ということであれば選書の基準に反するものではないという話はいただいている。冊数については図書館とも詰めないといけなかつた部分だと思うが、今の想定ではこのくらいである。

○牛尾委員長

十分やり取りして案を作っているのだから、今のところ大丈夫である。この件は一旦持ち帰っていただき、良い便りを待っている。

3 その他

○牛尾委員長

以上で今日の議題は終わった。持ち帰りの宿題があるので、次回開催はどうしよ

うか。

○小寺書記

一旦委員会を閉じていただき、日程調整をさせてほしい。

○牛尾委員長

ほかに皆から何かないか。

(「なし」という声あり)

ないようなので、第37回議会改革推進特別委員会を閉会する。

[11 時 24 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会改革推進特別委員会委員長 牛 尾 昭